

児童が学習過程を身につけるための学習シールの活用

Utilization of Learning Seals for Children to Learn Thinking-Cycle

高橋 純

Jun TAKAHASHI

東京学芸大学

Tokyo Gakugei University

佐藤和紀

Kazunori SATO

常葉大学

Tokoha University

横溝卓也

Takuya YOKOMIZO

さいたま市立北浦和小学校

Kitaurawa Elementary School

水谷年孝

Toshitaka MIZUTANI

春日井市立出川小学校

Degawa Elementary School

安里基子

Motoko ASATO

東京学芸大学

Tokyo Gakugei University

青木栄太

Eita AOKI

内田洋行

UCHIDA YOKO Co., Ltd

清水悦幸

Yoshiyuki SHIMIZU

教育同人社

Kyoikudojinsha co.,Ltd

〈あらまし〉主体的な学習活動を通して、児童に思考力・判断力・表現力等を育むためには、あらかじめ児童が学習過程を身に付けておくことが望ましい。そこで学習過程を意識しながら繰り返し学習をするための学習シールを活用した。探究的な学習の過程を基本の学習過程と考え、総合的な学習の時間のみならず、各教科等でも、学習シールをノートに貼りながら問題解決等の学習を行った。その結果、多くの教科等で、日常的に活用され、教員は効果を感じていることが明らかとなった。

〈キーワード〉 学習指導 学習過程 学習シール 探究的な学習 学習スキル

1. はじめに

思考力・判断力・表現力や問題発見・解決能力といった資質・能力の育成のためには、複合的・総合的な教育活動を行うとされる(梶田 2010)。こういった教育活動の流れを学習過程というならば、これまでも多くの学習過程が示されてきた。特に、中央教育審議会答申(2016)の第2部では、各教科等の特質に合わせた学習過程が示されており、それらは新しい学習指導要領(2017)にも引き継がれた。

児童に主体的な学習活動を通して思考力等を育もうと考えたとき、こうした学習過程が身につけており、意識せずとも当然のように発揮できることが望ましい。そのためにはあらかじめ繰り返し学習過程を意識しながらの学習が必要となる。

そこで、本研究では、総合的な学習の時間における「探究的な学習の過程」に着目した。これは各教科の特質を踏まえた様々な学習過程も、多くのケースで、本質的には探究的な学習の過程と類似しており、各教科等の問題解決の場面でも活用可能であると考えたからである。これにより同じパターンで繰り返し学習がしやすくなる。そして、探究というと、総合で行われるような時間数の多い学習過程と誤解されやすいため、「シンキング・サイクル」と名付けることにした。

その際、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった学習過程や各ステップを意識した学習をしやすいするために、学習シールを開発することにした。シールは、安価で学校で活用しやすい上に、児童はシールに好意的な意識をもっていることが多い。これらをノートに貼りながらの学習は、進めやすいと考えた。

本研究では、学習シールの開発、それらを活用した実践、学習シールの活用が授業に及ぼす影響を検討した。

2. 学習シールの開発

児童が学習過程や各ステップを意識した学習をしやすいするために、シールの大きさや配色等に配慮すること、児童が必要と考える時にいつでも使えるようにすること等を学習シールの条件として検討した。

その結果、ノートで使われるマス目のサイズを考慮し、シールは縦1cm横3cmのサイズとして、各ステップで異なる淡い配色にアイコンを含めることとした。1シートはノートやクリアファイル等に挟んで持ち歩きやすくなるためにA5サイズとして、そこに各ステップが15枚、合計60枚のシールを配した(図1)。

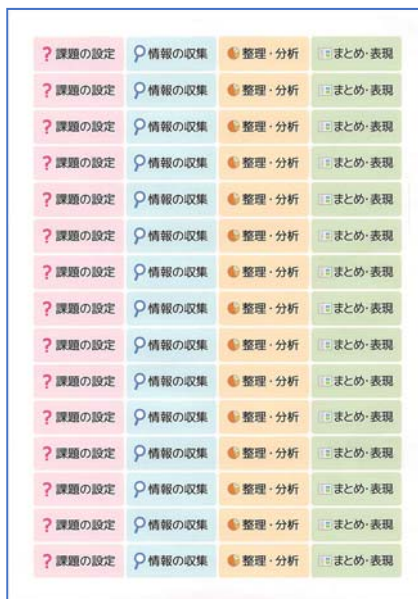


図1 学習シール

学習過程に関する教員研修を行った上で、各300枚ずつ配布した。活用する学年や教科等は各学校の判断に委ねた。

A小学校では、6年担任の4名で活用された。国語で活用した教員は2名、同様に社会は4名全員で、算数4名、図工1名、総合4名で活用された。他の教科での活用はなかった。活用頻度は、1日に1回程度が2名、数日に1回程度が2名であった。算数の文章題など問題解決場面で、1単位時間で1サイクルの活用が多かったが、1問を1サイクルとして1単位時間内で数サイクルを行っているケースもみられた。

B小学校では、低学年や専科の4名の先生を除いて、11名の教員に活用された。国語で活用した教員は10名、同様に社会8名、算数11名、理科11名、総合6名、特別活動1名であった。活用頻度は1日に数回程度が9名、1日に1回程度が1名、数日に1回程度が1名であった。全教員が問題解決的な学習や探究型の学習において、1単位時間に1サイクルとして活用していた。一部の教員は、教科や課題に応じて2～3時間に1サイクルといった活用をしていた。

両校共に、2ヶ月も経たず300枚のシールはなくなった。

3. 学習シールの活用した授業の効果

学習シールを活用した両校15名の教員に、「授業を計画しやすくなりましたか」といったシールが授業に及ぼす影響について、そう思わない(1

表1 学習シールを活用した授業の効果

1	授業を計画しやすくなったと思いますか	3.5
2	子供が活動しやすくなったと思いますか	3.5
3	「課題の設定」の段階において、これまでの授業より、児童に対して課題の設定を明確に指導したと思いますか	3.5
4	「情報の収集」の段階において、これまでの授業より、児童に対して情報の収集を明確に指導したと思いますか	3.6
5	「整理・分析」の段階において、これまでの授業より、児童に対して整理・分析を明確に指導したと思いますか	3.5
6	「まとめ・表現」の段階において、これまでの授業より、児童に対してまとめ・表現を明確に指導したと思いますか	3.5

3. 学習シールの活用

愛知県内
A小学校、
東京都内B
小学校に、

点)、少しそう思わない(2点)、少しそう思う(3点)、そう思う(4点)で尋ね、平均を求めた。加えて、1)シールの大きさや色、1シートあたりの分量などシールの形式に関する事、2)学習シールを活用した授業に関する感想等について自由記述で尋ねた。

その結果、授業の計画のしやすさ(3.5)、子供の活動のしやすさ(3.5)、「課題の設定」の指導(3.5)、「情報の収集」の指導(3.6)、「整理・分析」の指導(3.5)、「まとめ・表現」の指導(3.5)と、いずれも高い評価であった(表1)。これまでの授業と比較して、シールの活用が、授業の計画や各ステップにおける学習指導に効果を及ぼしているといえる。

学習シールを活用した授業に関しての感想等は、「各教科で適用しているため、学習に対して見通しをもつようになってきた(次、〇〇するんでしょ?と声上がる)」「子どもたちが学習の流れ(型)を理解し、次の活動を見通す場面、発言が見られるようになってきました」など、学習過程の見通しのよさについての感想が7名で最も多く、子供の学習意欲やノートづくりへの意欲の向上が見られたことが2名、シールがすぐになくなってしまったことについての指摘が2名であった。ノートの活用が多い教科は、概ね学習シールを活用するねらいを達成していると考えられた。

【謝辞】

春日井市立出川小学校、渋谷区立広尾小学校の皆様へ深謝申し上げます。

【参考文献】

梶田叡一(2010)教育評価、有斐閣
文部科学省(2017)小学校学習指導要領
中央教育審議会(2016)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について